

## 飛騨農林事務所の普及活動状況

令和3年12月29日現在

### ぎふ農業・農村を支える人材育成

#### ■新規就農者 新規就農者激励会を開催

12月13日、JAひだ本店において指導農業士会、青年農業士会及び農林事務所主催で令和3年度の飛騨地区「新規就農者激励会」を開催した。

新規就農者、高山市、飛騨市、JAなど関係機関計42名が参加する盛大な激励会となった。

激励会には新規就農者22名のうち13名が出席した。

県外からの就農者もあり、就農までに農地や資金等で困った点、就農後の栽培、経営上の課題や今後の悩みなどの質問に対して、農業士や関係機関がアドバイスするなど経営安定、発展に向けた活発な意見交換が行われた。

農業普及課では、飛騨ブランドを次世代へつないでいくためにも、新規就農者の経営安定に向けて支援していく。



【参加者全員で記念写真】

#### ■新規就農者 高山市家族経営協定調印式を開催

12月23日、高山市役所で家族経営協定調印式が開催され、農業委員会、市、農林事務所が立会人となり、10戸の生産者が家族経営協定を締結した。

内訳は、3月に農業大学校を卒業し来年度から親元就農する家族3戸と今年度以後継者として親元就農を始めた家族7戸である。

どの家族も後継者の就農にあたり、経営ビジョン、役割分担など就業条件を家族内で話し合い、今後の持続可能な農業経営を目指すための協定を作成した。

中には、当時後継者として締結していた方が今回は経営主となり、子供が後継者として締結するなど、時の流れを感じる調印式となった。

農業普及課では、家族経営協定をきっかけにした各生産者の経営の安定・継続に向けて今後も支援していく。



【参加者全員で記念写真】

#### ■担い手 GLAMAいきいきネットワーク飛騨ブロック研修会開催

12月21日、飛騨総合庁舎において、GLAMAいきいきネットワーク飛騨ブロックが冬季研修会を開催した。GLAMAいきいきネットワークとは、岐阜県女性農業経営アドバイザーという県農業の担い手リーダーで組織された団体で、仲間づくりや魅力ある農業・農村づくりのための活動を行っている。

今回は、コロナ禍ということもあり、飛騨ブロックとしては今年度初めての活動となり、会員同士で交流しながら、正月用のしめ飾りづくり体験を行った。しめ飾りづくり体験では、市内の生花店の方を講師に招き、花材等を組み合わせながら、各自オリジナルのしめ飾りを作成した。また、初めて活動に参加する新規会員や、久しぶりに顔を合わせた会員同士、自己紹介や近況報告をするなど交流を楽しんでいた。

農業普及課では、GLAMAいきいきネットワークの活動について、引き続き支援していく。



【しめ飾りの作り方の説明を聞く会員】

#### ■ 4 Hクラブ 視察研修を開催

高山4Hクラブは、高山市内の若手農業者47名で組織され、勉強会や視察研修など知識や技術の向上と交流を図っている。

12月9日、視察研修を開催し17名が参加した。当日は、海津市にある県スマート農業推進センターを訪問し、県内の実証事例の紹介や県事業についての講話を受け、直進田植え機や無人トラクターなど機械の視察を行った。参加者は積極的に質問するなど、スマート農業に対する関心の高さが伺えた。

農業普及課では、今後も4Hクラブの活動を通してクラブ員間の交流が活発になるよう支援していく。



【スマート農業機械を視察】

### ぎふ農畜水産物のブランド展開

#### ■ 水稲 白川村美味しい米づくり研究会が勉強会を開催

白川村美味しい米づくり研究会が12月9日に勉強会を開催した。同研究会は、昨年初めて「飛騨の美味しいお米・食味コンクール」で入賞者を輩出し、今年は全会員が入賞をめざして美味しい米づくりに取り組んできた。その結果、金賞1名、特別優秀賞4名と5名の会員が入賞を果たし、祝賀ムードに包まれての勉強会となった。

農業普及課では、中山間農業研究所とともに今回の好成績を踏まえたうえで今年の稲作の解析結果を報告し、来年の布石となるよう講演を行った。講演終了後には、個別の相談会を実施し、コンクールの結果などをもとに作成した食味診断書を活用しつつ栽培管理の状況などを聞き取りして次回のコンクールでの入賞に向けて指導・助言を行った。

白川村では、村内産米のブランド化を進めており、地域性を活かした良食味米の生産に向けて今後も支援を継続していく。



【勉強会での講演(上)  
と個別相談(下)】